

模擬国連定例会大会 2025 年冬会議

PPP 作成及び提出について

2025 年 11 月 29 日

模擬国連定例会大会 事務局

今大会では提出フォームを通じての PPP 提出になります。以下をよく読み、期限以内に誤りのないようにお送り下さい。

<Position Policy Paper (PPP) とは>

PPP とは、議題解説書 (BG) で得た知識をもとに、自国に関する情報を整理し、担当国と政策を立てる手助けをするためのものです。

冬会議はエッセイ形式の PPP が定番となっています。各大使が自分自身で情報を精査、取捨選択しながら、本質的な政策をじっくり議論するとともに、どのようにまとめ、伝えるのかという文章表現トレーニングを目的としているためです。

なお、PPP 作成は会議参加をするにあたって大使が果たすべき義務の 1 つです。会議参加をする以上、必ず提出をしてください。

<提出方法について>

- ・別紙の PPP 提出用紙に必要事項を入力し、ワードの PPP を添付してください。
- ・ワードでの提出ができない場合、PDF もしくは Google Doc のリンクでの提出を認めます。どの形式であっても必ず以下のフォームから提出してください。メールでの提出は認めません。ドキュメントの場合は必ずアクセス権限をオープンにしてフロントが見られるようにしてください。アクセス権限が付与されず、期限内にフロントが内容を見れない場合は不受理とすることがあります。
- ・ファイル名を「PPP_国番号_国名 (英語)」とすること。PPP フォームの名前を自国の情報に直して提出してください。(例: PPP_D49_Nepal)

<提出期限>

PPP 提出期間: 12 月 17 日 (水) 8 時~12 月 21 日 (日) 18 時 59 分 59 秒 時間厳守
提出の通知メールがフロントおよび顧問教員に届くため、17 日~20 日の間も 8 時~21 時までを提出時間とします。深夜、早朝の投稿はお控えください。

指定のフォームから提出してください:

<https://ws.formzu.net/fgen/S39548997/>



提出に関する注意

- ・提出時刻を過ぎるとフォームが自動的に閉鎖されます。
- ・期限後の提出は、1 秒の遅れであっても全て受理いたしません。PC の不調やネットトラブル、アドレスの入力ミス等の理由も考慮いたしません。
- ・締め切り間際はネットが混雑する可能性があります。時間に余裕を持った提出をお願いいたします。
- ・上記の提出時刻の厳守をお願いいたします。

作成に関する注意

- 1 文頭や文末に議場に対する挨拶や交渉に関するメッセージが記載されていたものがしばしば見られます。PPP は立場や政策のまとめであり、交渉手段やメッセージ発信ではありません。その観点から、そのような記載をしないように気を付けてください。仮にフロントが抵触すると判断したものは断りなく削除いたします。例えば、「～と協力したい」という一般的な表現は国際協力に関する政策・方針として受け取れますが、「～と話したい、議論したい、一緒に DR を作りたい」というような表現で当日の会議行動に触れたものは交渉に関するメッセージになりうるため削除対象になります。「こんにちは、よろしくお願いします、充実した会議にしましょう」などの文頭や文末の挨拶も避けてください。
- 2 PPP 提出用紙のフォントの種類、サイズ、形式は変更しないでください。色付け、下線部、太字の使用もできません。自国の立場や政策をまとめた小論文として、箇条書き等も控え、文章で作成してください。ですます調、である調については問いませんので、書きやすいほうで仕上げてください。
- 3 設問の①、②以外は、あらゆる形態の箇条書きを禁止します。政策や項目を列挙する場合は、例えば、「1 つ目に」、「第 1 の政策として」、「ゴール 3 に向けては」、「A、B、C という 3 点を考慮し」といったように文章として論述してください。小論文として 1 つの文章でまとめたものにしてください。箇条書きとみなされる場合は該当するパートを全て削除いたします。
- 4 原則提出は 1 か国 1 回としてください。再提出された場合は、最新のものを反映させるように努めますが、作業が煩雑であり、本来は資料をこちらが差し替える義務はないため、仮に最新のものがまとめて反映されていなくても掲載内容の訂正は受け付けいたしかねます。
- 5 原則的に、ボトムライン（妥協しても良いライン）を示すことは交渉で不利となります。特段の戦略的意図が無い限り、トップライン（自国にとって 100 点満点の政策や会議成果）だけを記載し、ボトムラインは記載しないようにしてください。仮にボトムラインが記載されていても、そのまま掲載いたします。
- 6 PPP の書式、内容、提出方法など、指示通りにできていないもの、体裁が整っていないものは不受理とします。PPP の受理・不受理については時にフロントと大使が揉めることがあります。不受理の判断は顧問の先生の指示に従い公平にいたします。不受理とならないように各大使の方が責任をもって提出をしてください。

以下の指示に従い、設問の回答を PPP 提出用紙に記述し、提出してください

<政策提案>

こちらの政策提案は各国大使に共有するものです。以下の設問に対する回答を含む形で、担当国としてのスタンスを枠内に日本語の場合 1200 字以内で論じてください。一般議場参加の場合は英語で回答しても構いません。(英語の場合 750 words 以内)

設問

- ① 今議題に関する自国の状況や課題について述べよ。
(目安: 日本語の場合 400 字、英語の場合 250 words)
- ② 自国の提案する政策を論ぜよ。
(目安: 日本語の場合 800 字、英語の場合 500 words)

※ ①、②を分けて論じて、一緒に論じて構いません。いずれの形で全ての回答を合計して上記の 1200 字もしくは 750 words 以内とします。各項目の字数はあくまでも目安であり、厳密に守る必要はありません。

※ 上記文字数を超えた場合、文の途中であってもそこまでの掲載とさせていただきます。Word の字数カウント機能で判断をいたします。

<参考文献>

主な参考文献を載せてください(書式は問いませんが、PPP 作成の研究に使う資料が分かるようにして下さい)。共有は致しません。

リサーチの手引き

以下のような観点からリサーチを進めてみましょう。

【基礎情報】

自国の場所や人口、宗教、民族、経済状況などについて幅広く知識を集めましょう。自国の基礎情報を知ることがスタンスの把握や立案のために非常に重要です。以下の資料を参考にすると良いでしょう。

- ・外務省の各国・地域情勢に関するページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>

- ・CIA, the World Factbook

<https://www.cia.gov/the-world-factbook/>

- ・～を知るための…章 エリア・スタディーズ(明石書店)

<https://www.akashi.co.jp/news/n3853.html>

- ・ニ宮書店『データブック・オブ・ザ・ワールド』(各年度版)

<https://www.ninomiya-shoten.co.jp/item/978-4-8176-0507-8>

【議題理解】

BG を基に以下の質問に答えられるようにしておきましょう。

- ・議題に関して、いま世界でどのような問題が起きているのか。その問題の根本的な原因は何なのか。また、その問題によって引き起こされることは何か。
- ・議題に関するこれまでの国際的な取り組みについて。
- ・議題に関する現状の国際的な取り組みについて。
- ・現在、国際社会ではどのような対立軸で、どのような主張が対立しているのか。

【リサーチと政策】

自国の立場から以下の質問に答えられるようにしておきましょう。

<現状>

- ・担当国の児童労働・児童婚・児童買春に関する状況、経済損失状況
- ・前提論：児童労働・児童婚・児童買春に関するスタンスやその問題に対する取り組み
- ・ゴール1の現状と課題、取り組み状況
- ・ゴール2の現状と課題、取り組み状況
- ・ゴール3の現状と課題、取り組み状況
- ・ゴール4の現状と課題、取り組み状況

<論点と課題解決の整理>

- ・今会議で担当国にとって特に解決しやすい論点、解決の難しい論点は何か。それはなぜか。
- ・短期：即時解決すべき課題は何か。(即時対応)
- ・中期：課題を解決するために整備・構築すべき法や社会、環境は何か。
- ・長期：持続可能な課題解決のために変容を求めるマインド、意識は何か。

<国益と国際益の整理>

- ・今回における担当国の国益や立場は何か。

- ・国際社会全体が今会議で目指すべき最低限の会議成果は何か。
- ・課題解決を実行するためにはなぜ、どのような国際協力が必要か。

<他国の理解、国際社会の協力>

- ・議題に関して、自国と関連が深い国はどこか。
- ・どのような特徴を持つ国が自国と協力／対立するのか。
- ・自国と協力できそうな国とはどのような点でどのようにして協力していくといいのか。
- ・自国と対立する国はどのような点で対立していて、どのように交渉するとよいのか。
妥協できる点はあるのか、また妥協すべきない点はどこなのか。

<政策の整理>

- ・担当国として訴える政策のトップラインとボトムラインは何か。
※トップライン(100点満点の理想)、ボトムライン(国益が守れる最低限のライン)
- ・今回訴える政策がなぜ国際社会の利益になるのか。
- ・訴える政策に対して予想される国際社会の声や反論は何か。
- ・どのような国がその政策を支持し、どのような国が反対すると予想するか。
- ・政策の合わないグループとの相違点は何か。